

地域・コミュニティ活性化賞

不要品のリユース財源を使って観光充足



レモリフ

レモリフ（向井良太郎社長、香川県高松市）は、電動モビリティを活用した移動手段の確保、観光の創出から、電動モビリティ設置の原資を自治体や地域の不要品をリユース・リサイクルによって得た収益で賄うビジネスモデルを構築した。同社が重視するのは「ワクワクしながら地方ならではの社会的課題を解決していく」こと。地元根差し応援される会社であり続けるための仕組みを生み出すことに注力している。

同取り組みのきっかけは、競合他社との差別化が難しくなりつつあったこと。車両販売以外での新たな価値提供を模索する中、今後は免許の有無に関わらず移動全般を提供する必要があると考えた。2022年4月、電動モビリティで島の移動課題解決に向けた取り組みが官民連携でスタート。瀬戸内芸術祭で島内における観光客の交通利便性を高めるため、同社と小豆島の中にある土庄町とで交通・観光・脱炭素に関する協定を締結。地元企業と協業し、モビリティでめぐる「豊島ガイドツアー」を開催した。

23年には「香川GO Gooshieア」として、香川県の島と高松市内において本格的に二次交通として電動モビリティを設置した。四国観光のラストワンマイルを電動モビリティによりサポート。いままも導入自治体の数を増やしている。

地域への「〰幸、循環」を実現



自治体が動きやすい背景にあるのが同社の仕組みだ。例えば放置自転車を回収し、海外へリユースした収益を元に、電動モビリティを購入し設置する。これまでは処分費が発生していたものを原資に置き換える「〰幸、循環」を全面に打ち出している。今後導入自治体やモビリティの種類を増やし、地域の社会課題の解決を推し進めていく方針だ。

【受賞者コメント】この度は、地域・コミュニティ活性化賞をいただき、誠にありがとうございます。FUTURE様、浜屋様との出会い、そしてこの活動に賛同いただいた多くの企業様のご支援により、持続可能な取り組みとして「もったいない」のおせっかい」という地域の課題を解決させる仕組みが整いました。「移動」により幸せが循環するよう「幸福社会の実現」に向けて、活動を続けていきたいと思います。